

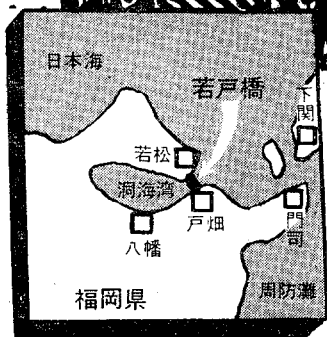
### トンネルと掘削工法の訂正表について

初版は品切れとなり目下再版を準備中です。再版に当り各著者より訂正および追加の御申出がありましたので、全部訂正して出版します。初版を購入された方はお手数ですが、本訂正表によりお手許の本を御訂正願います。会員外で購入された方も学会へお申出下されれば別刷をお送りします。

なおスペースの節約を図るためできるだけ圧縮して登載いたしますから御諒承下さい。

ページ	行	訂正																																																																						
4	上・3	異なっているため、大断面方式が一概に ストーパーでは 25.4 mm 木ノ芽を北陸に直し各データを次のように追加																																																																						
〃	下・8																																																																							
5	表-3																																																																							
トンネル名	地質	進 (m)	孔数 (本)	切羽 1m <sup>2</sup> 当り孔数	心抜方法	孔 深	孔深/切羽巾×100	使用火薬量 (kg/m <sup>2</sup> )																																																																
北 陸	粘板岩 砂カウ岩	1.2~1.5	100~157	1.4~2.3	ピラミッド	1.2 ~ 1.5	13 ~ 17	1.0 ~ 1.3																																																																
10	下・25	<p>合わせた部分に滑動 たがって大きな 施工するまで放置 トンネルでは</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>トンネル名</td> <td>ズリ積機 公称能力</td> </tr> <tr> <td>俱利加羅</td> <td>大空 600, 12~15 m<sup>3</sup>/h アイムコ 40 H, 100~160 m<sup>3</sup>/h</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>トンネル名</td> <td>平均ズリ積 時 間</td> <td>実際 (1台) ズリ積能力</td> </tr> <tr> <td>Stornorrfors</td> <td>12.5</td> <td>131</td> </tr> </table> <p>図-20, 21 は復線用のもの る (図-5 参照)。 一般地質調査・航空写真の利用の項; 路線選定・地質概要○を◎に訂正 特殊地質調査の最後に音波探査を追加し、海底トンネル計画・断面に◎を追加 トンネルの巾 <math>B</math> の 40% (0.4 <math>B</math>) 以上 最少心要と見られ 蒲山久夫 最大需要電力=.....=281.4 kW</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">製作所</td> <td colspan="2">米国インガーソル</td> </tr> <tr> <td>項 目</td> <td>型 式</td> <td>D 505</td> <td>DB 35</td> </tr> <tr> <td>ブロー数 (回/min)</td> <td></td> <td>1750</td> <td>1750</td> </tr> <tr> <td>回転数 (回/min)</td> <td></td> <td>44</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>機 長 (本体のみ (mm) しセルつき</td> <td></td> <td>1420</td> <td>1470</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">製作所</td> <td colspan="2">米国インガーソル</td> </tr> <tr> <td>項 目</td> <td>型 式</td> <td>J-30A</td> <td></td> </tr> <tr> <td>シリンダー径 (mm)</td> <td></td> <td>59</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ストローク (mm)</td> <td></td> <td>914</td> <td></td> </tr> <tr> <td>重 量 (kg)</td> <td></td> <td>18.3</td> <td></td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">製作所</td> <td>アイムコ</td> <td>アイムコ</td> </tr> <tr> <td>項 目</td> <td>型 式</td> <td>630</td> <td>105</td> </tr> <tr> <td>走行速度 km/h</td> <td></td> <td>0~3.2</td> <td>高 0~8.0 低 0~3.2</td> </tr> <tr> <td>積込能力 m<sup>3</sup>/min (サイクル時間 sec)</td> <td></td> <td>1~2 (15~20)</td> <td>4~7 (15~20)</td> </tr> <tr> <td>動 力 HP×数</td> <td></td> <td>空気 12×3 電気 15×3</td> <td>ディーゼル 134 電 気 100</td> </tr> </table>	トンネル名	ズリ積機 公称能力	俱利加羅	大空 600, 12~15 m <sup>3</sup> /h アイムコ 40 H, 100~160 m <sup>3</sup> /h	トンネル名	平均ズリ積 時 間	実際 (1台) ズリ積能力	Stornorrfors	12.5	131	製作所		米国インガーソル		項 目	型 式	D 505	DB 35	ブロー数 (回/min)		1750	1750	回転数 (回/min)		44	44	機 長 (本体のみ (mm) しセルつき		1420	1470	製作所		米国インガーソル		項 目	型 式	J-30A		シリンダー径 (mm)		59		ストローク (mm)		914		重 量 (kg)		18.3		製作所		アイムコ	アイムコ	項 目	型 式	630	105	走行速度 km/h		0~3.2	高 0~8.0 低 0~3.2	積込能力 m <sup>3</sup> /min (サイクル時間 sec)		1~2 (15~20)	4~7 (15~20)	動 力 HP×数		空気 12×3 電気 15×3	ディーゼル 134 電 気 100
トンネル名	ズリ積機 公称能力																																																																							
俱利加羅	大空 600, 12~15 m <sup>3</sup> /h アイムコ 40 H, 100~160 m <sup>3</sup> /h																																																																							
トンネル名	平均ズリ積 時 間		実際 (1台) ズリ積能力																																																																					
Stornorrfors	12.5		131																																																																					
製作所			米国インガーソル																																																																					
項 目	型 式		D 505	DB 35																																																																				
ブロー数 (回/min)			1750	1750																																																																				
回転数 (回/min)			44	44																																																																				
機 長 (本体のみ (mm) しセルつき			1420	1470																																																																				
製作所			米国インガーソル																																																																					
項 目	型 式		J-30A																																																																					
シリンダー径 (mm)			59																																																																					
ストローク (mm)		914																																																																						
重 量 (kg)		18.3																																																																						
製作所		アイムコ	アイムコ																																																																					
項 目	型 式	630	105																																																																					
走行速度 km/h		0~3.2	高 0~8.0 低 0~3.2																																																																					
積込能力 m <sup>3</sup> /min (サイクル時間 sec)		1~2 (15~20)	4~7 (15~20)																																																																					
動 力 HP×数		空気 12×3 電気 15×3	ディーゼル 134 電 気 100																																																																					
11	下・18																																																																							
〃	下・12																																																																							
〃	下・4																																																																							
13	表-5																																																																							
〃	〃																																																																							
〃	〃																																																																							
14	下・2																																																																							
28	上・15																																																																							
46	表-4																																																																							
57	上・14~15																																																																							
63	上・22																																																																							
76	文献の <sup>7), 11)</sup>																																																																							
85	下・17																																																																							
86	表-6																																																																							
89	表-7 (2)																																																																							
105	表-20																																																																							
108	図-49, 50	<p>両方の写真のみ入れかえる Junior Challenger Drill DH-123 J を CM に訂正 CM の項の大きさを全長 2.08 m, 全巾 2.08 m に訂正, 走向を 0~6.4 km/h に訂正 説明をもって満足し ダム サイト別あるいは地域別の上から5を黒四曜堤に訂正 対する%は小円を中心 探査してこれを填充する の湧水は、転位面中に限られ 爆薬の総量 N35°W/84 W および 型式・塊体積 (m<sup>3</sup>) 作用水頭の項・81 を取水口水路の位置にあげ 104 の間に矢印を入れる (81→104) 11000 程度であった。 最近の発電所 とし写真を 90° 回転 (短かい辺を底辺) する 1818 年 Marc Isambard</p>																																																																						
156	上・15)																																																																							
158	写真-2)																																																																							
160	表-4 (1)																																																																							
177	表-4 (3)																																																																							
178	下・12																																																																							
183	表-1																																																																							
188	下・13																																																																							
190	上・12																																																																							
193	下・14																																																																							
200	上・27																																																																							
216	上・11																																																																							
326	上・2・1																																																																							
327	上・2・2																																																																							
336	上・4																																																																							
	写真-10																																																																							
	写真-11																																																																							
	下・16																																																																							

# 夢のかけ橋



近年、国土開発の動脈ともいふべき優良道路の建設がいそがれていますが、海にかこまれ、河川の多いわが国では、この国道の発展とともに、大型・軽量・堅牢な橋梁が最も要求されています。

このたび北九州工業地帯の要衝の地、若松市と戸畑市を結ぶ洞海湾に、東洋一の規模といわれる吊橋「若戸橋」が架けられることになりました。

日立造船は、この建設工事の中核となる橋塔と中間橋脚の製作・架設工事をひきうけます。創業以来、各種の道路橋・鉄道橋を建設してきた専門メーカーとしての豊富な経験と斬新な技術・設備が生かされるわけです。

当社の施工する鋼材重量

戸	側	橋	塔	1,900ト
畑	側	橋	塔	1,900"
松	側	中間	橋脚	300"
若	側	中間	橋脚	300"
	合	計		4,400"



## 日立造船

創業1881年

本社 大阪市北区中之島2丁目25  
電話 大阪(23) 8051~9  
東京支社 東京都千代田区丸の内2丁目20の1  
電話 東京(28) 5231~9